

第 50 回 日本臨床細胞学会近畿連合会 学 術 集 会

プログラム・抄録集



学術集会 会長 小笠原利忠
特定医療法人誠仁会 大久保病院

会 期：2025 年 12 月 14 日（日）
会 場：兵庫医科大学 平成記念会館
主 管：兵庫県臨床細胞学会

日本臨床細胞学会近畿連合会 <https://www.kinkirengo.com/>
大会ホームページ <https://hyogo-scc.jp/hscckinkiki2025/index.php>

第 50 回臨床細胞学会近畿連合会学術集会

会長挨拶

この度、第 50 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会を兵庫県が担当させていただくこととなりました。2025 年 12 月 14 日（日）の会期で、兵庫医科大学 平成記念会館において、ハイブリッド形式（現地開催+Live 配信）で開催いたします。

学術集会も記念すべき 50 回目の開催となります。大きな節目となる学術集会の大会長を拝命し、身が引き締まる思いを感じると同時に、これまで本学会の発展に尽力してこられた多くの方々に、心より敬意を表します。

本学術集会のテーマは第 50 回の節目の記念大会であることを考慮して、「50 年、そして次世代へ繋ぐ」といたしました。次の 50 年にむけたビジョンを、創出することに挑みたいと思います。そこで今回、口腔細胞診、婦人科細胞診、バーチャルスライド（WSI）カンファレンスという視座で捉え、次世代の社会において果たすべき役割やあり方を考える機会にしたいと考えております。口腔細胞診は昨今の口腔癌及びその死亡率の増加傾向から、早期発見のため患者への負担が少なく、容易に採取できる口腔擦過細胞診が普及してきておりますので取り上げました。婦人科細胞診は子宮頸がん検診への HPV 検査の導入により、細胞診における ASC の取り扱い（トリアージ）が重要となります。また新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって学会の活動形態は大きく変化し、WEB を用いた学術集会や会議が旺盛となり現在に至っております。細胞診領域において、情報通信技術（IT）をいかにうまく利用し浸透させるかが課題となっていました。その状況下で、兵庫県で力を入れてきた WSI を駆使したカンファレンスを行います。

いろいろな状況そして環境の変化に合わせるように成長していかななくてはなりません。生まれる前に赤ん坊がいたお腹の中の羊水と海水のミネラルバランスがほぼ同じであることは、偶然ではなく祖先が何十億年も過ごしてきた海の環境を未だに胎児の過程で再現しているように、本学会も状況に応じて変化し成長していく中で、全ての領域の、特に癌の細胞診断をカバーする専門学会として発足した原点を忘れずにいたいと思います。今後の日常業務に役立つ、より良い継続的な学習の機会となるように、兵庫県臨床細胞学会・兵庫県細胞検査士会の会員が一丸となって協力し、本学術集会の開催に取り組むたいと考えています。近畿連合会の皆様のご協力をお願いするとともに、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



第 50 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会
会長 小笠原 利忠（誠仁会 大久保病院）

学会実行委員会

学術集会長	小笠原利忠	誠仁会 大久保病院
学術集会副会長	廣川満良	神甲会 隈病院
実行委員長	廣田誠一	兵庫医科大学
実行副委員長	鳥居良貴	兵庫医科大学病院
運営事務局	中村純子	兵庫医科大学病院
会計責任者	上岡英樹	JCHO 神戸中央病院
会計補佐	鳥居洋祐	兵庫医科大学病院
専門医実行委員		
	伊藤智雄	神戸大学医学部附属病院
	梶本和義	県立がんセンター
	河原邦光	神戸大学大学院医学研究科地域連携病理学
	衣笠万里	明和病院
	杉原綾子	明和病院
	内藤子来	誠仁会 大久保病院
細胞検査士実行委員		
	東 恭加	県立がんセンター
	阿部結穂	公立八鹿病院
	今川奈央子	神戸大学医学部附属病院
	岩熊隆太郎	県立丹波医療センター
	岩本英樹	(株) 協同病理
	上山美帆	県立はりま姫路総合医療センター
	太田寛子	宝塚市立病院
	岡田麻由奈	県立尼崎総合医療センター
	尾松雅仁	神戸市立医療センター中央市民病院
	片山裕司	JCHO 神戸中央病院
	加藤ゆり	県立がんセンター
	金森詩音	宝塚市立病院
	金本貴之	済生会兵庫県病院
	川嶋雅也	(株) 兵庫県臨床検査研究所
	川村道広	近畿中央病院
	菊口圭介	姫路中央病院
	小林建太	神鋼記念病院
	坂本慎一	赤穂中央病院
	真田浩一	県立尼崎総合医療センター
	塚本龍子	神戸大学医学部附属病院
	永谷たみ	姫路赤十字病院
	新田篤史	県立加古川健康福祉事務所

布引 治	神戸常盤大学
濱武周平	県立尼崎総合医療センター
樋口観世子	神甲会 隈病院
福田彩乃	神戸市立医療センター西市民病院
堀越裕子	県立丹波医療センター
松木慎一郎	県立西宮病院
圓井知江	誠仁会 大久保病院
森井雅敏	(株) 兵庫県臨床検査研究所
山尾直輝	神甲会 隈病院
山口千鶴	北播磨総合医療センター
山下展弘	神戸市立医療センター西市民病院
和田 陽	兵庫医科大学病院
顧問	
長谷川和男	北摂中央病院

協 賛

松浪硝子工業(株)
 武藤化学(株)
 村角工業(株)
 ホロジックジャパン(株)



会場へのアクセス

兵庫医科大学 平成記念会館

〒520-0801 兵庫県西宮市小松南町2丁目6

TEL 0798-41-7030



【公共交通機関をご利用の場合】

- ・ 阪神電鉄「武庫川駅」西出口より徒歩3分
- ・ JRをご利用の場合は、JR甲子園口駅よりタクシーで約10分

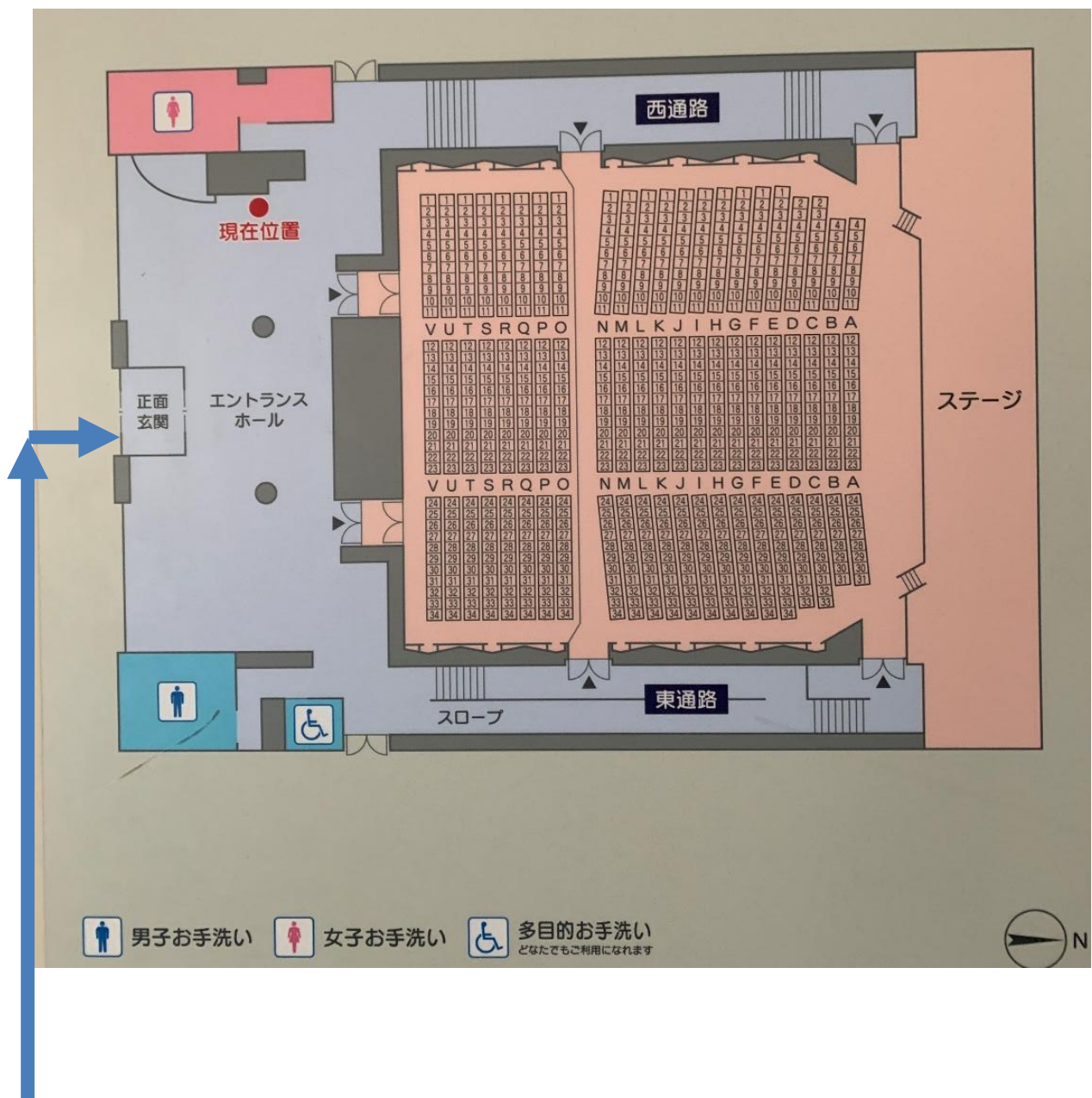
【自家用車の場合】

兵庫医科大学病院の立体駐車場は、お見舞いの方優先のため近隣のコインパーキングをご利用ください。できるだけ公共交通機関のご利用をお願い致します。

(駐車場料金：一般利用者 20分/400円)



会場：兵庫医科大学 平成記念会館 会場図



阪神武庫川駅方面



会員および演者へのお知らせ

受付開始 9:00 エントランスホール

～会員の皆様へ～

1. 事前参加登録制となっております。
2. 当日現地参加および Live 配信（Zoom）によるオンライン参加のみで、後日のオンデマンド配信はありません。
3. 現地参加の各地域連携組織会員は、参加登録時に発行される参加証およびバーコードをご自身で印刷してご持参ください。当日受付でバーコードをご提示ください。当日受付登録された場合にのみ日本臨床細胞学会の単位が発行されます。
細胞診専門医：2 単位、CT(JSC)：15 単位、CT(IAC)：7 単位
4. Live 配信によるオンライン参加の各地域連携組織会員につきましても、当日視聴が確認された場合にのみ日本臨床細胞学会の単位が発行されます。
5. 日本産科婦人科学会の単位は発行されません。
6. ランチョンセミナーのお弁当は、引換券との交換とさせていただきます。
当日受付登録の際に引換券をお受取りください。
7. スライドカンファレンス症例は、事前投票となっております。
8. 公共交通機関をご利用ください。

～演者の皆様へ～

1. ご発表はすべて PC によるプレゼンテーションで行っていただきます。
2. データは PowerPoint で作成してください。（Macintosh には対応していません）

～お飲み物、軽食（パン）無料サービス～

エントランスにてご用意しております。

提供：松浪硝子工業(株)、武藤化学(株)、村角工業(株)

プログラム

学会テーマ「50 年、そして次世代へ繋ぐ」

会 期:2025 年 12 月 14 日(日) 9:45 ~ 17:00 (受付 9:00 開始)
会 場:兵庫医科大学 平成記念会館
形 式:ハイブリッド形式(現地開催および Live 配信)

学術集会長:小笠原 利忠(誠仁会 大久保病院 婦人科)

総 合 司 会:堀越 裕子(兵庫県立丹波医療センター 検査部)
圓井 知江(誠仁会 大久保病院 検査科)

9:45-9:55 開会の挨拶

小笠原 利忠(第 50 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会長)

9:55-10:00 近畿連合会会長挨拶

井上 健(大阪市立総合医療センター 病理部・病理診断科)

10:00-10:40 口腔細胞診ワークショップ

座長:岸野 万伸(宝塚医療大学 保健医療学部)

10:00-10:20

OWS-1 「細胞検査士を対象とした大阪府と兵庫県における口腔細胞診新報告様式の普及に関するアンケート調査」

池田千浦子¹⁾、重岡学²⁾、久野雪乃¹⁾、上田愛里¹⁾、芳鐘雄大¹⁾、鈴木克京¹⁾、
岡村友玄¹⁾、和唐雅博³⁾、富永和也¹⁾

1) 大阪歯科大学歯学部口腔病理学講座

2) 神戸大学大学院医学研究科病理学講座分子病理学分野

3) 大阪歯科大学附属病院

10:20-10:40

OWS-2 「当院における口腔擦過細胞診についての後方視的検討」

太田 寛子 (CT)¹⁾、金森 詩音 (CT)¹⁾、松尾 祥平 (MD)²⁾

1) 宝塚市立病院 医療技術部 臨床検査室

2) 宝塚市立病院 診療部 病理診断科

10:40-10:50 休憩

10:50－11:40 教育講演

座長：重岡 学（神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 分子病理学分野）

「今日から好きになる口腔細胞診～基礎知識と細胞の見方～」

講師：久山 佳代（日本大学松戸歯学部 病理学講座）

11:40－12:10 休憩

12:10－12:40 ランチョンセミナー（ホロジックジャパン株式会社）

座長：西川 武（天理大学 医療学部 臨床検査学科）

「ThinPrep・子宮内膜細胞診を正しく診断するために（仮）」

講師：池本 理恵（株式会社エスアールエル GP 検査本部 GP 西日本検査部）

12:40－13:00 50 回記念企画 スライドショー

「近畿連合会 50 年、そして次世代へ」

井上 健（日本臨床細胞学会近畿連合会会長）

小笠原 利忠（兵庫県臨床細胞学会会長）

鳥居 良貴（兵庫県細胞検査士会会長）

13:00－13:10 休憩

13:10－13:30 総会

井上 健（日本臨床細胞学会近畿連合会会長）

13:30－14:30 特別講演

座長：小笠原 利忠（誠仁会 大久保病院 婦人科）

「子宮頸部病変の細胞診・組織診における共通性と乖離」

講師：安田 政実（岐阜赤十字病院病理診断科/埼玉医科大学国際医療センター病理診断科）

14:30－14:40 休憩

14:40－16:40 シン・スライドカンファレンス

アノテーション機能を用いた相互参加型バーチャルスライドカンファレンス

OSC-1 泌尿器

座 長：専門医 井上 健（大阪市立総合医療センター 病理部・病理診断科）

検査士 真田 浩一（兵庫県立尼崎総合医療センター 検査部）

検査士 塚本 龍子（神戸大学医学部附属病院 病理部）

出題者：検査士 菅井 祝（大津赤十字病院 病理診断科部）

専門医 白瀬 智之（大津赤十字病院 病理診断科部）

回答者：検査士 荻野 みなみ（和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部）

専門医 辻村 万莉奈（奈良県立医科大学附属病院 病理診断学講座）

○SC-2 婦人科

座長：専門医)高橋 顕雅 (滋賀医科大学 産婦人科)

検査士)真谷 亜衣子 (日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部)

検査士)川嶋 雅也 (兵庫県臨床検査研究所 検査部)

検査士)福田 彩乃 (神戸市立医療センター西市民病院 臨床検査技術部)

症例提供・解説：専門医)衣笠 万里 (信和会 明和病院 産婦人科)

○SC-3 呼吸器

座長：専門医)中島 直樹 (宇治徳洲会病院 病理診断科)

検査士)浦 雅彦 (近畿大学奈良病院 臨床検査部)

検査士)上岡 英樹 (JCHO 神戸中央病院 検査部)

検査士)小林 建太 (神鋼記念病院 病理室)

症例提供・解説：検査士)松村 和 (近畿中央呼吸器センター 臨床検査科)

専門医)清水 重喜 (近畿中央呼吸器センター 臨床検査科)

16:40—16:50 次回学術集会会長挨拶 (第 51 回 2026 年和歌山)

小島 史好 (和歌山県臨床細胞学会会長)

16:50—17:00 閉会の挨拶

廣川 満良 (兵庫県臨床細胞学会副会長)

★★エントランスホールにて体験ブースも企画しております★★

①9:00～10:30 ②14:30～16:00

「標本の「質」が診断を変える！？ —甲状腺専門病院における塗抹手技、体験会—」

担当：隈病院 病理診断科 病理医・細胞検査士

抄 録



【口腔細胞診ワークショップ 1】

細胞検査士を対象とした大阪府と兵庫県における口腔細胞診新報告様式の普及に関するアンケート調査

池田千浦子¹⁾、重岡学²⁾、久野雪乃¹⁾、上田愛里¹⁾、芳鐘雄大¹⁾、
鈴木克京¹⁾、岡村友玄¹⁾、和唐雅博³⁾、富永和也¹⁾

- 1) 大阪歯科大学歯学部口腔病理学講座、
- 2) 神戸大学大学院医学研究科病理学講座分子病理学分野、
- 3) 大阪歯科大学附属病院

【緒言】口腔細胞診の新報告様式(以下、新報告様式)は、口腔粘膜上皮の癌化、発育過程を反映させた判定区分および診断基準を採用しており、角化傾向の強い咀嚼粘膜の上皮内腫瘍性病変や早期癌の診断が可能であると報告されている。しかし、新報告様式が提示されてから 10 年が経過しているものの、その普及率は不明である。【方法】2024 年 8 月から 11 月にかけて、表題地域の臨床細胞学会支部に所属する細胞検査士に対し、口腔細胞診の実施状況や報告様式、口腔粘膜疾患などに関するアンケート調査を行った。【結果】69 名から回答を得た。口腔細胞診の経験がある者は 69%であり、うちクラス分類を使用している者が 35%、新報告様式を使用している者が 29%であった。口腔細胞診に興味がある者は 87%である一方、口腔の白板症や扁平苔癬の病態や細胞像を理解している者はそれぞれ 19%、9%にとどまった。口腔潜在的悪性疾患については、この疾患群を全く認識していない者が 26%であった。また所属施設や近隣他府県で活動する口腔病理専門医や細胞診専門歯科医の存在を認識している者は 53%であり、細胞診専門歯科医という資格を知る者は 51%であった。

【考察】口腔がんは全国的に増加傾向だが、細胞診専門歯科医の認定者数は決して多いとは言えない(2025 年現在、細胞診専門医が 4238 名であるのに対し、細胞診専門歯科医は 129 名)。本調査における細胞診専門歯科医の認知度が 51%であったことも考慮すると、さらなる判定精度向上のためには、細胞診専門歯科医から細胞検査士や臨床医への積極的なアプローチが必要である。すなわち、細胞診専門歯科医が主導となり、多職種協働による実習付きの講習会やウェビナー開催といった新報告様式の普及活動を行っていくことが必要と考えられた。

【口腔細胞診ワークショップ 2】

当院における口腔擦過細胞診についての後方視的検討

太田 寛子 (CT)¹⁾, 金森 詩音 (CT)¹⁾, 松尾 祥平 (MD)²⁾

1) 宝塚市立病院 医療技術部 臨床検査室

2) 宝塚市立病院 診療部 病理診断科

【はじめに】口腔擦過細胞診は、口腔癌の早期発見・早期治療のためのスクリーニング検査として注目されている。歯科口腔外科を有する市中病院である当院においても、口腔擦過細胞診の件数が近年増加している。今回、口腔擦過細胞診症例について後方視的に検討を行った。

【対象と方法】対象は2022年1月から2024年12月までに当院で実施された185件の口腔擦過細胞診検体（直接塗抹法）とし、判定（Class分類）後の臨床的対応を調査した。そのうち当院にて組織生検・切除された症例について、組織診との対比を行い、一致例・不一致例について検討した。

【結果】細胞診185件の判定内訳は、Class I, II 144件、Class III, IV, V 41件であった。Class III以上の症例においては、組織生検・切除あるいは高次医療機関への紹介がされていた。また、組織診と細胞診との不一致例の内訳は、「Class IIと判定した低異型度異形成1件、上皮内癌1件、高分化型扁平上皮癌3件」、「Class III 鑑別困難と判定したエプーリス1件、扁平苔癬1件」、「Class IVと判定したエプーリス1件」であった。

【まとめ】当院における口腔擦過細胞診の症例は、Class分類ごとに適切な臨床的対応が取られていると考えられた。不一致となる要因としては、病変部から十分な細胞量が採取されていない場合や、表層分化型扁平上皮癌でOG好性細胞の核異型が乏しい場合、潰瘍部からLG好性細胞が採取された場合が挙げられる。当院の一致例・不一致例の検討からは、まずはOG好性細胞の特徴を観察し、次にLG好性異型細胞の有無を観察する方が、腫瘍性病変を的確に拾い上げることができるのではないかと考える。また、採取量の多寡を記載し必要に応じ再検を促すことや、次に取るべき臨床的対応を所見に記載することも重要である。

【教育講演】

今日から好きになる口腔細胞診～基礎知識と細胞の見方～

日本大学松戸歯学部 病理学講座

久山 佳代

日本では年間約 8,500 人（全悪性新生物の 2%）を超える方々が口腔・咽頭がんで命を落とされています。ところが口腔がんは自覚症状に乏しく、口腔がんを発見するのは歯科医師であるべきはずなのに、未だに他科を受診される方が少なくありません。また口腔は直視できますが、肉眼診断で口腔がんを発見できる確率は 44%といわれています。さらに病変に気づき、専門施設で口腔がんの確定診断が得られるまでに約 4 か月を要するといわれています。厚労省は口腔がんを制御しきれていない日本の現状を注視し、かかりつけ歯科医師の役割と警鐘を鳴らしました。その結果として現在全国で行われている口腔がん検診は、自治体と歯科医師会等の検診実施主体が協力した連携事業として活発化したのです。さらに令和 4 年には、「生涯を通じた歯科検診（いわゆる国民皆歯科健診）」の具体的な検討が政府の『骨太の方針』として閣議決定し、口腔がんの臨床所見を睨んで“口腔粘膜の色と形状を観察する”よう項目立てされています。今後ますますの口腔細胞診検体の増加が予想されます。

ところが検体数増加の一方で、口腔細胞診はしばしば難しいといわれています。その理由の一つめは、口腔細胞診の経験値には非常に幅があります。二つめは、消化器の入口である口腔が前方の口唇から後方の口峡までひとつの空間ではあるものの、解剖学的に非常に多数の名称から構成され、さらに常時刺激が加わるために細胞所見に炎症性変化が認められることです。三つめは口腔粘膜疾患には口腔粘膜固有の疾患、皮膚科的疾患の口腔表現、そして全身疾患の口腔表現の 3 種類あることです。四つめは、口腔細胞診の判定基準が口腔特有であることです。

そこで、明日からの口腔細胞診のスクリーニング時に会うであろう上記 4 つのハードルを少しでも下げるべく、豊富な写真を用いてお話します。

【特別講演】

子宮頸部病変の細胞診・組織診における共通性と乖離

岐阜赤十字病院病理診断科/埼玉医科大学国際医療センター病理診断科
安田政実

子宮頸部病変は大きく HPV 関連と非依存性に分けられ、本邦の子宮頸癌全体の発生率は 13.9/10 万人で、扁平上皮癌は 10.2、腺癌は 3.0 と両者間には 3 倍以上の開きがみられる。腺癌は頻度の上では希少癌（発生率<6/10 万人）に相当する。HPV 非依存性腺癌を代表する胃型にいたっては、本邦で頻度が高いことが知られているが、実際のところ経験値はかなり低い。

Bethesda system（以下 BS）が確立されて以来、細胞診判定と治療管理方針との一体化を特徴とする本報告様式は完全に定着した。BS による細胞診判定/カテゴリーと組織診を照らし合わせながら、*本講演では“疑陽性とは何か”を考えてみる。「疑陽性」は BS 上、ASC-US/H あるいは AGC に置き換えられ、組織診にみる化生や萎縮などを反映していることが多い。ASC は「質的、量的に SIL/CIN とするには足りない」と定義されるが、ASC を「細胞診の限界」と捉えるべきではない。「中等半端な病変・病態」、あるいは「初期段階」の診断の難しさは組織診と共有され、ASC は組織診にも応用可能なカテゴリーと言える。*本講演では“ASC の意義”を再考してみたい。また、AGC はしばしば施設によってはかなり多用されるが、このことの根本は細胞診が「腺管/管状構造を読み取ることは得意とは言えない」ためとも理解される。加えて、腺系病変の困難度の高さは、頻度/経験値が扁平上皮系のそれに比べて低いことに根本理由が求められる。現実的に、腺系病変は施設間で経験頻度の差がかなり大きい。*本講演では、“AGC の悩ましさ”にも目を向けてみる。また、全般的にいずれの悩ましいケースも、細胞診・組織診に基づいた形態のみを拠り所とする判定には限界があり、もはや「p16 の助け」を抜きには語れない。*本講演では、“p16 が教えてくれること”を考察してみる。

以上、子宮頸部の細胞診・組織診における“もやもやした存在”に焦点を当てたお話をさせていただく。

【スライドカンファレンス】

SC-1. 泌尿器

座長

専門医) 井上 健 (大阪市立総合医療センター 病理部・病理診断科)
検査士) 真田 浩一 (兵庫県立尼崎総合医療センター 検査部)
検査士) 塚本 龍子 (神戸大学医学部附属病院 病理部)

出題者

検査士) 菅井 祝 (大津赤十字病院 病理診断科部)
専門医) 白瀬 智之 (大津赤十字病院 病理診断科部)

回答者

検査士) 荻野 みなみ (和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部)
専門医) 辻村 万莉奈 (奈良県立医科大学附属病院 病理診断学講座)

【症 例】 60 歳代

【性 別】 男性

【検体名】 自然尿 (SurePath)

【既往歴】 特記事項なし

【現病歴】 特記事項なし

夜間の尿失禁、頻尿にて受診。造影 CT にて膀胱壁のびまん性肥厚と周囲脂肪
織濃度上昇あり。両腎ともに軽度の水腎症を認めた。膀胱鏡にて後壁広範囲に
浮腫状不整粘膜を観察した。尿細胞診が提出された。

SC-2. 婦人科

座長

専門医) 高橋 顕雅 (滋賀医科大学 産婦人科)

検査士) 真谷 亜衣子 (日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部)

検査士) 川嶋 雅也 (兵庫県臨床検査研究所 検査部)

検査士) 福田 彩乃 (神戸市立医療センター西市民病院 臨床検査技術部)

症例提供・解説

専門医) 衣笠 万里 (信和会 明和病院 産婦人科)

【症 例】 60 歳代

【性 別】 女性、未婚未妊、閉経 57 歳

【検体名】 膣部頸部擦過 (ThinPrep)

【既往歴】 大腸がん、脂質異常症

【現病歴】 特記事項なし

自覚症状や性器出血はなく、子宮頸がん検診を受診。翌年も、同施設にて子宮頸がん検診を受診された。

(提示スライドは検診 1 回目と 2 回目の両方を提示)

SC-3. 呼吸器

座長

専門医) 中島 直樹 (宇治徳洲会病院 病理診断科)
検査士) 浦 雅彦 (近畿大学奈良病院 臨床検査部)
検査士) 上岡 英樹 (JCHO 神戸中央病院 検査部)
検査士) 小林 建太 (神鋼記念病院 病理室)

症例提供・解説

検査士) 松村 和 (近畿中央呼吸器センター 臨床検査科)
専門医) 清水 重喜 (近畿中央呼吸器センター 臨床検査科)

【症 例】 60 歳代

【性 別】 男性

【検体名】 キュレット擦過 (直接塗抹)

【既往歴】 他院にて左上葉肺癌に対して胸腔鏡下左肺上葉切除を施行され、
肺小細胞癌と診断された。

【現病歴】 生化学、血液データ：特筆すべき所見なし

腫瘍マーカー (CEA、ProGRP、CYFRA、NSE)：いずれも正常範囲内

喫煙歴：40 本/日×18 - 54 歳

化学放射線療法目的に当院を紹介受診。化学放射線療法後無再発で経過されていたが、4 年後の CT にて右肺 S6 に新たに肺結節を指摘された。3 ヶ月後の CT で同結節の増大を認め、気管支鏡検査 (TBB、キュレット擦過) を施行した。



2025 年 10 月 18 日発行

第 50 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会
運営事務局

兵庫医科大学病院 病院病理部内

電話：0798-45-6324 FAX：0798-45-6325

E-mail：jscc-hyogo@hyo-med.ac.jp

ホームページ URL：<https://hyogo-scc.jp/h SCC/kinki2025/>

事前登録・単位発行

株式会社インターグループ

電話：06-6372-8455 FAX：06-6376-2362

E-mail：jscc_kinki2025@intergroup.co.jp